

---

# 日本人中医診療記

## その7

天津中医薬大学 柴山周乃

今年も、日本に傘の花咲く梅雨の季節がやってきました。ここ天津に梅雨はありませんが、5月上旬から7月上旬まで、ときどき、短時間のうちに継続的に風速が増加し豪雨が降ります。熱帯地方でもないのに、まるでスコールのようなようです。たまたま、激しい突風、雷を伴うこともあります。排水設備がプアーな天津は、雨がやんだあと街なかは大混乱です。道路が冠水し、足首まで水に浸からせ帰宅したことが三度ほどあります。そんななか、靴にスーパーのレジ袋をかぶせ歩いている人をよく見かけ、思わずクスッと笑ってしまいますが、これも1つの生活の知恵でしょうか？

私事ですが、5月末に引っ越しました。と言いますのは、2007年に発症した咳喘息はしばらく落ち着いていましたが、昨年、住んでいたマンションの2階上からじわじわと水漏れし、私の家のstorageの箱に黒カビが大発生し、咳喘息を再発してしまったのです。日本でしたら、二度と同じ事故を繰り返さないよう配慮してくれると思いますが、今年も同様の事故が起き、咳喘息が再発。引っ越しはエネルギーがいりますので、できれば避けたかったのですが、二度あることは三度あると思い決断しました。

今回は「冬病夏治」。冬に発病または発作しやすい病気の治療を夏に行い、その発作を予防し、症状を軽くするという意味です。具体的には、喘息・気管支炎・リウマチ・関節炎・カゼをひきやすい体質などがあります。咳喘息は、慢性咳嗽を唯一の臨床症状とする喘息の亜型と定義されています。中国語で咳喘息は、“咳嗽変異性哮喘”または“咳嗽型哮喘”といい、年々発病率が増加し中医薬治療の研究も進んでいます。中医では、咳喘息と典型的な喘息の発病メカニズムは同じと考えていますので、今回は自分の体験も含め、咳喘息の中医治療についてお話します。

現在のところ咳喘息の正式な中医名はありませんが、巢元方の『諸

---

病源候論』咳嗽病諸候のなかに「風咳……」の記述があり、本病の主要な病因が“風邪”という理由から「風咳」と呼んでいる学者もいます。病機は、風・痰・瘀・鬱・虚が互いに影響を及ぼし合い、病変は肺・肝・脾・腎に及びます。

咳喘息の症状としては、一般的に発熱や痰などはなく、夜中から明け方に激しい咳が出たり、空咳が慢性的に続くというのが典型的な特徴です。まだ咳喘息の明確な原因は判明していませんが、咳喘息を発症する人の特徴として、カゼをひいたあとに起こるケースが多い、アレルギー体質のある人に多い、一般的に女性に多い傾向がある、などがあげられます。咳喘息が起こる際の特徴として、タバコの煙・エアコンなどの冷たい風・会話・電話・運動などいくつかの要因が考えられます。また、咳喘息は咳嗽がおもな症状のため、上気道炎や慢性・急性気管支炎と誤診されることが多いといわれています。

次に、治療方法です。

1. 治法：急則治標（急性期には標を治す）・緩則治本（慢性緩解期には本を治す）、あるいは標本兼治（標・本ともに治す）の原則のもと治療を行います。

(1) 急性期（咳嗽症状が重い）：病変臓腑は肺ですから、宣肺開閉祛外風を用い治療します。必要に応じ、潤肺生津・斂肺止咳・温肺化痰・活血化瘀などを補い治療し、極力早く咳嗽を緩和させるのが一番のポイントです。

(2) 慢性緩解期：慢性緩解期の治療は、いわゆる“治未病”です。

① 健脾補腎：予防が一番肝心ですので、再発予防のため健脾補腎を行います。気虚の場合、衛虚腠理不密で風邪が侵入しやすいので、「玉屏風散」を用い抵抗力を高めるのも1つの手です。

② 冬病夏治：「冬病夏治」は伝統的な中医薬療法ですが、『素問』四気調神論のなかで記述されている「春夏養陽（春夏には陽気を保養する）」の原則にもとづき「天灸療法」を行い、正気を鼓舞させ、抵抗力を高め、病気を予防します。「三伏貼」は天灸療法の1つで、暦のうえで夏の最も暑い時期「三伏天（今年は7月18日・7月28日・8月7日）」に背中の中経穴に、配合した漢方薬を貼る敷貼治療です。白芥子・細辛・甘遂・元胡を粉末にし、生姜汁を加えペースト状にし、肺俞・脾俞・腎俞・膏肓穴に貼ります\*。



蝉退



僵蚕2



僵蚕1



炒僵蚕

現代医学の研究により、咳喘息と気管支喘息の根本的な病理変化は同じであると考え、咳嗽と哮喘に配慮し、弁証と弁病を合わせ治療にあたります。現代薬理学を総合し、特効薬を応用し治療していきます。

**2. 特効薬物の応用：**中医には、“風盛則痒”“風盛則攣急”という言葉があり、本病治療では「疏風解痒」が最も重要です。臨床表現にもとづき、疏風宣肺・緩急解痙・利咽止咳を主に、あとは個々の証に合わせ加減します。

以下は、臨床で咳喘息治療によく使われる生薬です。

- (1) 疏風・散風：炙麻黄・荆芥・防风・蘇葉・葛根・蝉退・僵蚕・地竜・全蝎。
- (2) 宣肺止咳：前胡・紫苑・杏仁・款冬花・炙杷葉。
- (3) 緩急解痙：地竜・全蝎・五味子・白芍・蘇子・米殼。
- (4) 疏風利咽：牛蒡子・青果・訶子。
- (5) 養陰潤燥：麦門冬・北沙参・炙杷葉。



地竜 1



地竜 2



全蝎 1



全蝎 2

(6) 化痰清肺：黄芩・魚腥草・川貝・桑白皮・火麻仁・梨皮・玄参。

(7) 活血化癥：丹参・赤芍。

(8) 調補肺腎：太子参・黄精・山茱萸・枸杞子・肉苁蓉・五味子。

3. 中成薬：麻杏甘石湯・小青竜湯・小柴胡湯・杏蘇散・桑菊飲・三拗湯などを使用できますが、処方前にはしっかりとした弁証が必要です。

最後に、症例報告として私のケースをご紹介します。

**症例・柴山ケース**：2011年3月6日、カゼをひいたあと、咳喘息が再発。激しい咳、夜間および明け方に悪化、軽度の呼吸困難。舌質紅、苔黄膩、脈沈弦。処方：炙麻黄 10g, 杏仁 15g, 黄芩 20g, 地竜 15g, 荊芥 20g, 蘇子 10g, 桔梗 15g, 陳皮 15g, 五味子 15g, 僵蚕 10g, 蟬退 10g, 全蝎 2g, 白前 20g, 浙貝 15g, 桑白皮 30g, 重楼 20g, 大青葉 20g, 甘草 10g。大学の老中医による、急性期治療の処方ですが、止咳平喘・清熱化

痰・緩急解痙法を用いています。1剤で効果が顕著に現れ、7剤で症状は緩和されました。私の場合、咳喘息の発症因子は、カゼ・タバコの煙・エアコンの冷気・カビ・チョコレートの粉・花粉・香水など教科書どおりです。アドエア・ディスカス®・ホクナリンテープ®など気管拡張剤を使用することもあります。ファーストチョイスは漢方薬で、通常、1～2剤服用するだけで症状はかなり改善されます。

**結語：**中医には、「因人制宜」（異なる人に応じ適切な治療をすること）という考え方がありますが、咳喘息治療の際にも、外因を治療すると同時に個々の内臓を調節することに配慮します。そうすることにより、外邪散・肺気宣・痰気消・肝気疏・枢機利・脾気健・腎気固させることができ、肺の宣発肅降機能が正常に回復し、臓腑機能も正常になり、本来の役割を果たします。その結果、気機がスムーズに流れ、気道炎症・気道の過敏性亢進を抑えることができます。整体調節、つまり身体全体のバランスを整えることにより、咳喘息も治癒します。

以上、今回は咳喘息の中医治療についてお話ししました。

今年の日本の夏は、北海道から東海にかけては平年並みのようですが、近畿から沖縄で高温傾向と聞いております。皆さま、体調を崩されませんようお元気でお過ごしくださいませ。祝 夏安！



\* 文献 李麗：中薬外敷配合内服治療咳嗽変異型哮喘 48 例。実用中医内科雑誌 19（1）：66，2005

プロフィール

柴山周乃（しばやま・ちかの）

愛知県名古屋出身

1996年 日本航空株式会社・国際客室乗員部退社

1999年 天津中医学院（現天津中医薬大学）本科入学

2006年 中華人民共和国・中医医師資格取得

2010年7月 天津中医薬大学・中医内科学博士課程卒業

修士課程は天津中医薬大学第二付属病院・循環器内科杜武勳教授に師事、「糖尿病性心疾患の中医病機メカニズム及び臨床治療」を研究。

博士課程は天津中医薬大学・張伯礼学長に師事、「中医および漢方医学による心疾患・脳血管疾患治療」を研究。現在は、引き続き張伯礼学長に師事し外来で診察および中国人学生の講義を担当。